

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2013年2月

ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2 は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに 66 の規格を発行し、16 のプロジェクト（規格開発）が進行中である。SC2 下で活動中の作業部会を表.1 に示す。なお、WG8 は、SC9 国内委員会が担当しているので、本稿では取り上げない。

表.1 TC61/SC2 の WG

WG	幹事国	名称
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	耐衝撃性
4	アメリカ	動的力学特性
5	イギリス	温度依存性
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	イギリス	データの標記方法

*SC2 の幹事国：スペイン

2012年9月17日～9月21日にスペインのバルセロナにて第61回TC61国際会議（年次大会）が開催され、SC2関係では各WGの会議及びSC2全体会議が開催された。本稿では、国際会議での議論を中心にTC61/SC2の最近の動向についてWG別に概要を報告する。

1. 静的力学特性（WG 1）

ISO 527-1 及び**-2**（引張特性の求め方）：開発途上、日本からの意見を取り入れてもらうべく議論を重ねた結果、開発に長い時間がかかったが、ようやく2012年2月22日にISが発行された。

ISO 178（曲げ特性の求め方）**改正**：2010年末にISが発行されたが、2011年TC61マレーシア会議にて、試験片の成形時のひけ及び厚さ/長さの比率等に関して、日本から改正提案を行った。日本の提案は受け入れられ、追補として投票にかけることに決まった。ところが、投票に付された追補案（DAmd）は十分に日本の意見を反映していなかったため、修正して最終投票（FDAmd）にかけることが、バルセロナ会議にて決まった。

ISO 899-1 及び**-2**（クリープ特性の求め方）**追補**：いずれも附属書を追補として発行する提案であったが、投票にて承認され発行することとなった。

2. 硬度及び表面特性（WG 2）

マイクロ押し込み硬さ：日本提案である「マイクロ押し込み硬さの求め方」について、適用範囲や最適測定条件の検討を行ってきた。今回のバルセロナ会議にて、検討結果を報告し、新規提案を行った。

その結果、5ヶ国の積極賛成（エキスパート）を得ることができた。WDを整えて、NWIP投票を行うことが合意された。

CD 17541（スクラッチ誘起損傷の定量評価）：韓国からの新規提案のCD投票が行われ、投票結果及び投票時のコメントについてバルセロナにて審議された。コメントが多く寄せられ、またイギリス、ドイツ等の主要国が反対しているため、CD2にて再投票を行うこととなった。

3. 耐衝撃性（WG 3）

ISO 180（アイゾッド衝撃特性の求め方）**追補**：本追補は精度データの追加であり、FDAmDに進むこととなった。

ISO 13802 改正（振り子衝撃試験機の検証）：本プロジェクトは重要な規格の改正であるが、進捗が遅い。バルセロナにて、CD投票に（できれば加えてDISも）進むことが承認された。

4. 動的機械特性（WG 4）

ISO 6721-10（動的機械特性の試験方法—第10部：振動レオメータによる複素せん断速度）：本プロジェクトは韓国提案で、NWIP投票によりテーマは認められた。ただし、本テーマSC2とSC5（物理・化学的性質）の境界領域にあり、SC2/WG4とリエゾンをとりつつ、審議はSC5/WG9にて行われることとなった。

5. 温度依存特性（WG 5）

ISO/DIS 75-1及び**-2**（荷重たわみ温度の求め方）：本提案は、測定温度の高温への延長を目的とした改正案である。DIS投票にて承認され、FDIS投票に進むことが決められた。その際、代替の加熱方法（流動床、空気浴）を加えることとした。

ISO 75-3（第3部：高強度熱硬化性積層版及び長繊維強化プラスチック）**改正**：本規格に対しても上記と同様に高温への延長が適用できるか否か、ラウンドロビンテストを行うべく、バルセロナ会議にてテスト参加の呼びかけがあった。

ISO/DIS 306（ビカット軟化温度の測定）：DIS 75と同様に、測定温度を高温側に延長することを目的に、日本より提案した改正案である。DIS投票にて承認され、FDISに進むことが認められた。

6. 疲労及び破壊靱性（WG 7）

NWIP（接着された柔軟なラミネート材の剥離試験による破壊じん靱の求め方）：イタリアからの本新規提案は、SC11（プラスチック製品）とも関係する規格であるが、SC2/WG7で審議することとなった。バルセロナにて、NWIPに対する議論が行われた結果、CD投票に進めることが承認された。国内審議においては、SC11の委員会にも審議文書を回付し、意見を求めることとした。

以上